

薬師寺中心伽藍に至る寺域内東西道路の南側溝と考えられ、西流しで西二坊大路東側溝の延長上に位置する南北溝SD一七八五に注ぎ込む。両溝は併存し、廢絶は近世に下る。SD一七九〇からは、他に奈良時代から室町時代にかけての軒瓦、室町時代頃の瓦質の擂鉢、江戸時代の土師器（灯明皿としての使用痕跡あり）、漆器椀、灯明皿受台などが出土している。木簡は掲出の一点以外全て墨付きのみの断片である。

8 木簡の釈文・内容

(1) 十〔一カ〕月八日〔供カ〕廿一ヶ度除□□□ (318)×(37)×4 081

中世以降の祈禱札の類と考えられる木簡で、右辺と下端は原形を保ち、右辺上部には切り込みがあった可能性がある。左辺は欠損しており。上端も現状より若干長かったと考えられる。一定期間日光にさらされていたためか、文字が一部白く浮き上がって残り、斜光により釈読できる部分がある。

9 関係文献

奈良文化財研究所『奈良文化財研究所紀要』10011 (10011年) (渡辺晃宏)



奈良・旧大乗院庭園

きゅうだいじょういんていえん

1 所在地 奈良市高畠町

2 調査期間 1100年(平13)10月～1101年1月

3 発掘機関 奈良文化財研究所平城宮跡発掘調査部

4 調査担当者 代表 金子裕之

5 遺跡の種類 庭園跡

6 遺跡の年代 古代～近代

7 調査地及び木簡出土遺構の概要

調査地は平城京跡左京四条七坊東端部にあたる。奈良時代の元興寺禪定院の故地とされ、平安時代後期以降は興福寺の門跡寺院である。大乗院となつた。日本ナショナルトラストによる「名勝旧大乗院庭園保存修理事業」の一環の調査で一九九五年度以降継続して行なつており、過去にも木簡が出土した（本誌第一二二号）。



(奈良)

今回は西小池北端が想定される北区と、東大池南西部

の島を対象とする南区の計約五〇七²m²を調査した。主な検出遺構は西小池、中島、奈良時代とみられる柱穴列、中世の焼土面、近代の建物基礎、防空壕、テニスコートなどである。

木簡は北区の池SG八三二一埋立土から出土した。SG八三二一は、いくつかの小池が連なって形成される西小池の内、北端の池で、東西九m南北一四mのほぼ橢円形を呈する。中央部に島SX八三二一をともなう。SG八三二一は室町時代に掘られ、改修を受けながら近世を通じて存続し、廢仏毀釈以降に埋め立てられた。池の埋立土からは、木簡三点以外に近代初期の学校関係遺物が多数出土した。片面に「ビンチャン」と墨書した直径五cm厚さ一・八cmの瓦転用円盤状遊具も出土している。周辺が明治時代前半に飛鳥小学校の敷地となっていたことと関連する。

8 木簡の积文・内容

- (1) 「○□年生」
62×21×7 011
- (2) 「九四 調 新 日 □ □□□
□□月
乙」
21×275×11 061
- (3) 「御笠□□」
450×168×10 011

(1)は上部に穿孔を有する木札。一字目は「もしくは五であろう。

(2)は石版の枠木。枠木の下辺にあたる横枠材とみられる。石版の石材も出土した。(1)(2)は飛鳥小学校に関連する。(3)は上部に穿孔を有する看板。腐蝕が激しく、一部に穴があいてしまってはどで、文字の浮き上がりなどでからうじて読める。飛鳥小学校が移転した後に、事務所として使われていた際の遺物であろう。

9 参考文献

奈良文化財研究所『奈良文化財研究所紀要一〇〇一』(一〇〇一)
(馬場 基)